

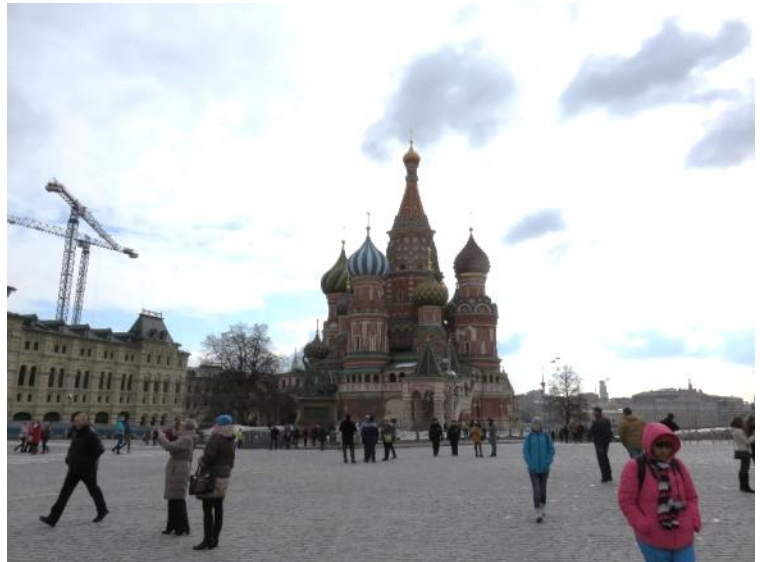
モスクワ日本人学校での実践報告

派遣先：モスクワ日本人学校
戸田市立新曽小学校
教諭 花野 嘉 則

1 はじめに

モスクワに派遣先が決まった時、様々な事を考えた。まず「ロシア語」とインターネットで検索して出てきた文字が読めなかった。次に youtube で会話表現を聞いてみた。しかし、予想以上に全くわからなかった。そのため、「本当にやっていけるのだろうか」という不安はあった。言葉が通じない中で生活できるのだろうか、買い物はできるのだろうか、ロシア人とコミュニケーションが取れるのだろうか、英語は本当に通じないのだろうか等、不安を挙げればきりがなかった。

しかし、自分自身の楽天的な性格や、既に日本人が暮らしている場所であるということもあり、これから始まるであろう異文化生活に対する期待は本当に大きかった。



以下、モスクワ日本人学校についてまとめていこうと思う。

2 ロシアとモスクワ市、モスクワ日本人学校の概要

面積世界1位の大国ロシア連邦共和国。国土は日本の4.5倍で1,707㎢、時間帯は9つもある。人口は1億4,350万人で世界第9位。そのため人口密度は1㎢あたり8人と少ない。(ちなみに日本は、1㎢あたり約330人)

通貨単位はロシアルーブルで、1ルーブル=2.23円である。この値は今年6月7日時点のレートで算出されているが、ちなみに私が派遣された2012年4月頃は1ルーブル=約3円だった。アメリカドルと比べると、現在1ドル=約56ルーブル。2012年4月頃は、1ドル=約27ルーブルで、現在は価値が3年前の半分以下になってしまっている。ウクライナ危機以降、不安定な状態であるため、今後の貨幣価値の変動は予測が難しいと思われる。しかしながら、日本人社会の生活はそこまで不安定さがあるわけではない。

モスクワ市はロシアの首都である。人口は約1,211万人、面積は2,511km²で、人口密度は1km²あたり4,772人。(東京は1km²あたり6,000人超)日本との時差は、昨年の10月末で変更となり、6時間となっている。中心部には集合住宅しかなく、週末はダーチャと呼ばれる別荘で農作業や余暇を過ごす家庭が多い。渋滞が社会問題となっているモスクワだが、ダーチャに向かう家庭が多いため、金曜の夕方から郊外に向けてかなりの渋滞が起こる。

気候帯は亜寒帯で、夏は30℃超、冬は-20℃を超えることがある。緯度が高いため、日照時間も季節によってかなりの変化がある。

治安は日本と比べると悪い。犯罪件数が多く、ほんの数年前にテロ事件も起きている。現在モスクワ日本人学校のHPが閉鎖されているのは、学校に通っている子供達が標的とならない様にとの配慮からだ。

また、ロシア人は本当に親切である。また、一見すると無愛想で怖いイメージを持ってしまうロシア人だが、困っている人を放っておかず、必ず声をかけてくれる。また、少しでもロシア語を話せるようになると、表情が明るくなり、気さくに話しかけてくれる。



モスクワ日本人学校は、今年度で創立48年目。1967年にヨーロッパで初めて出来た日本人学校である。世界最北の日本人学校であり、かなりの高緯度地域に位置するため、夏は夜10時過ぎまで明るく、冬は朝8時過ぎまで暗い。在籍児童生徒数は約120~130人で、2013年度には一時的に140人超となったこともある。1学年1クラスで、小中一貫校となっている。学期は3学期制である。

校舎は5階建てで、そのうち4・5階は日本人学校が使用している。また1階はスウェーデン人学校、2階はイタリア人学校、3階はフィンランド人学校が使用しており、日本人学校関係者の間では「同居校」と呼ばれている。グラウンドと体育館は同居校も使用するの、どの学校がどの時間に使用するのかがはっきりと分けられている。

3 特色ある教育活動

ロシア語の授業

各学年、週1回ずつ行う。現地スタッフ3名で習熟度別に分けて授業を行っている。転入したての子供は苦手意識があるが、だんだん慣れて、ロシア語が好きになっていく。

英語活動の授業

小学部1・2年生は20分ずつの週2回、小学部3~6年生は週1回、中学部は日本と

同じ時間数で行っている。現地職員2名と派遣教員で習熟度別に2グループで授業を行っている。

スケート学習

例年12月か1月から授業を始めている。敷地の管理会社が、校庭端にあるテニスコートに水を張って凍らせて、スケート場に変える。どの児童生徒もスケート学習が好きで、進んで授業に取り組む。スケートの検定表に沿って技を練習し、様々な滑り方に挑戦する。

主な行事

モスクワ日本人学校は、小規模校としての利点を生かし、どの行事も、異学年交流をしながら行う事が多い。以下、大きな行事を紹介していく。

①修学旅行

小学部は5・6年生が参加している。モスクワ近郊にバスで出かけ、キャンプファイヤーやブリヌイ焼き体験等の野外活動か、サンクトペテルブルクに飛行機で行き、ロシアの文化や芸術に触れる活動を年度ごとに順番に実施している。

中学部では、ポーランドやリトアニア、ラトビア等、ロシアと関わりの深い国々へと飛行機で出かけている。各地でのロシアとの関わりを調べ、実際に見学してきたことは、10月に行う学習発表会で劇にして発表している。



②運動会

2012年度は9月に行ったが、気温が低く、保護者はコートを着ながら見ていた。その為、2013年度からは6月開催となった。安全面も考え、2012年度から組体操の代わりに小学部5年生から中学部3年生までが合同でロックソーラン節を行っている。1・2年生、3・4年生はそれぞれ表現ダンスを行っている。

昼に、ロシアの伝統的な民謡コロブチカを踊る。全校児童生徒と保護者と共に、保護者、教職員も入って和やか



な雰囲気です。

③ 写生遠足

小学部と中学部で別々の所へ行って、写生をする。写生した後は、縦割り遊びをして交流する。小学部ではツァリーツィノ公園や世界遺産カローメンスコエ公園に行った。中学部はモスクワ大学や日本人学校の校舎を写生した。



④ いちご狩り体験

例年モスクワ郊外にあるソフホースレーニンに出かけ、小学部全員でいちご狩りを行う。収穫は縦割り班で行い、収穫したいちごの1割を労働の対価としてもらえる。スーパーマーケットで買ういちごはすっぱくて味気の無いが、ここで収穫したいちごは甘くておいしい。



⑤ モスリンピック

毎年12月から2月末にかけて、学部ごとに行う。チームは縦割り班で、各種目の合計点数を競い合う。種目は、雪山作りや雪上フラッグ、そりリレー等、モスクワの冬らしいものが多い。百人一首大会も行っているので、冬休みには競って札を覚えてくる子供が多い。



⑥ 学習発表会

全校で行っているモスクワ日本人学校最大の行事の一つ。保護者も子供達も、毎年とても楽しみにしている。内容は各学年の出し物（劇が中心）の他に、小学部低・中・高学年・中学部ごとの音楽発表やロシア語の歌発表、同好会（クラブ活動）の発表等、様々である。

特に中学部が最後に見せる劇は、修学旅行先で見学や体験して感じたことを基に、台本も子



供達が考えている。保護者の感想には「感動した。子供が中学部に入るまでモス日にいたい。」という記述が少なくなかった。

⑦同居校との交流

モスクワ日本人学校は、年に1度、職員研修として同施設内にある3校への授業見学を行っている。また、様々な場面で交流を行っている。ロシア語によるフィンランド人学校の演劇発表見学、サッカーでの交流、4校合同でのモスクワオリンピックを行ったこともある。また、2014年度は、スウェーデン人学校との合同体育の授業を行った。授業を行った教員によると、スウェーデン人の教員は、特にマット運動に興味を持って感動していたそうである。



⑧現地校との交流授業

モスクワ日本人学校は、30年近くに渡って現地校との交流授業を行っている。小学部、中学部がそれぞれ別の学校と交流している。12月は日本人学校の児童生徒が現地校に行き、1月は現地校の児童生徒が日本人学校に来てそれぞれ交流している。ロシア人の学校ではロシアの文化を、日本人学校では日本の文化を意識した授業を行った。特に相撲の授業には喜んで参加していた。



個人的には、週に1度習っていたロシア語を授業でも使える貴重な場でもあった。

3 おわりに

あっという間とは正にこのことだと、今年3月に感じてしまった。モスクワ日本人学校で最後に子供達に話したことは、「何かを始めるのに年齢は関係ない」ということだった。私は向こうでロシア語を習い始め、アイスホッケーも始めた。きっとロシアに行かなかったら絶対やらなかったことだ。1年目にはとても憂鬱だったスケートの授業は、2・3年目には待ち遠しくなった程だった。片言のロシア語で上手く話せていなかっただろうに、警備員さんやスクールバスのドライバーさんたちは気さくに冗談交じりに話しかけてくれた。思いを伝えるには、言葉だけではなく、伝えようという気持ちが大切だと感じた。日本での生活に慣れたら、また何か新しいことを始めてみようと思う。